

筑波大学 学生員 松田和香  
筑波大学 正会員 石田東生

1. はじめに

近年、わが国においても政策や様々な計画立案過程における Public Involvement (以下、PI) の導入がみられるようになってきたが、これらの実施はまだまだ試行錯誤段階であり、成果は実施担当者の多大な労力や時間に依存しているのが実情である。特に、比較的实施例の多い市町村の都市計画マスタープラン(都計法第18条の2)(以下、都市計画MP)策定過程においては、PI実施が形式化されている等といった問題点が多く指摘されている<sup>(1)</sup>。今後の本格的なPI導入に向け、より効果的にPIが実施される必要がある。そのためにはPIの評価を行い、知識やノウハウを蓄積し、さらに結果をフィードバックしていくことが重要であると考えられる。

本研究では、PIの評価の一環として、都市計画MP策定過程におけるPI活動が参加市民の意識等に与える影響について分析を行う。

2. 研究の方針

本研究では、はじめにPI評価の考え方について整理し、次にPI試行事例の採取を行い、調査設計、分析方針を検討するという手順で進めた。PIの評価を実施するにあたっては、予め、評価のための考え方や、評価の枠組みについて整理・検討を行う必要があった。この結果、後述する5つの軸を評価フレームとして設定できた。これらは既往研究や先行事例のレビュー、PI先行事例や紛争事例の調査・研究等による成果<sup>(2)</sup>であるが、ここでは詳細に触れない。PI試行事例は、牛久市都市計画MP策定過程におけるPI活動を採りあげた。牛久市は、茨城県南部に位置する人口約7万人の自治体であり、市街化の進んだ駅周辺地域と古くからの農村地域が共存するため、様々なタイプの市民が居住しているという特徴を持つ。図1に示すとおり、この一連の過程は主に、素案作成のための情報収集段階と素案作成段階の大きく2つに分けられ、後者は策定委員会によって進められた。本研究では市民全体を対象としている第1,2回地域別懇談会を調査・分析の対象とする。

3. 調査の設計・実施

先に述べたPI評価フレームにしたがって、分析対象、本研究アプローチ、視点を整理したものを表1に示す。にある個別事業を含まないような政策・計画立案段階、特に都市計画MP策定過程におけるPIでは、市民と市の協働作業体制づくり(例えば情報提供の徹底や都市計画への参加意欲・関心の向上、信頼関係の構築等)が重要な目的と考えられるため、そのような評価視点を設定した。さらにに生かせるような調査設計を行い、第1回及び第2回地域別懇談会において参加者へアンケート調査を実施した。配布回収方法および回収結果を表2に示す。

4. 参加市民の意識等に与える影響の分析

懇談会の方法や内容が市民の意識・関心にどのような影響を与えるかについて、共分散構造モデルを用いて分析を行う。なお、各懇談会共に、素案に対する説明の部とワークショップ等による懇談の部で構成されているが、表3や参加者属性の違いから、第1回、第2回の各モデルを構築する。この際、観測変数を表4のように設定し、因子分析の結果、各モデルとも因子負荷量が0.8以上となるものを採用した。

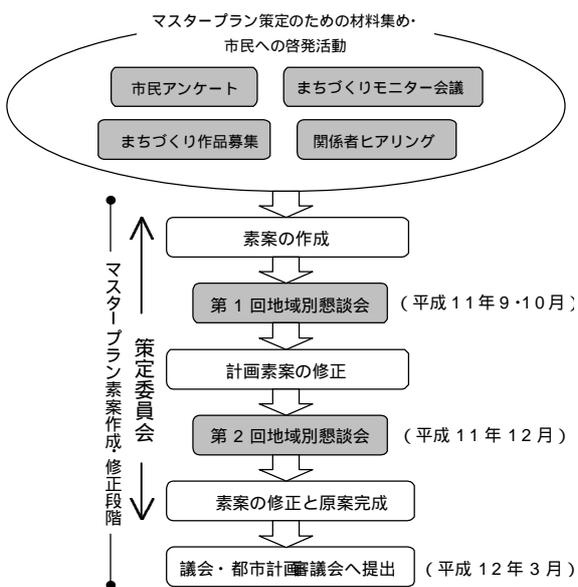


図1 牛久市MP策定過程

表1 牛久市MP策定過程における位置づけ

PIのタイプ	政策・計画立案段階のPI
" 評価の単位	PI手法や情報提供の方法・内容
結果の用途	PIプロセス構築のための基礎資料 PI手法・情報提供方法の検討および 担当者の留意点、等
情報提供者	懇談会参加市民
評価の手法	アンケート調査
評価の視点	PI手法の方法や内容への満足度、都 市計画の関心・意欲向上、意識の変化

表2 アンケート配布回収方法および回収結果

	配布・回収方法	回収数(回収率)
第1回	会場配布-郵送回収	47(38%)
第2回	会場配布-回収	59(92%)

キーワード：Public Involvement, 評価

〒305-8573 茨城県つくば市天王台 1-1 筑波大学社会工学系都市交通研究室 Phone & Fax：0298-53-5591

4.1 第1回懇談会が参加市民の意識・関心の変化に与える影響の構造モデル(図2)

このモデルは、意見交換が活発だと満足したならば、都市計画の関心の向上やまちづくりの参加意欲向上、あるいは市民が参加することの重要性の認識向上といった意欲向上へ強い影響を与え得るという意識構造が現れている。また、市の担当者の対応に満足したならば、市への信頼向上や、市民の意見が反映されるという期待の向上に影響を与え得るという構造になっており、同時に、懇談の満足と担当者の対応に対する満足、または懇談の満足と説明の満足には密接な関係があることがこのモデルから説明される。さらに、計画内容への満足度が低いほど、参加意欲の向上へ影響を与えるという構造も現れている。

4.2 第2回懇談会が参加市民の意識・関心の変化に与える影響の構造モデル(図3)

図2の構造と似ており、懇談会で質問がしやすかった、あるいは意見交換が活発であったならば、都市計画の関心の向上や、まちづくりへの参加意欲向上、市民が参加することの重要性の認識向上といった意欲向上へ強い影響を与え得るという意識構造が現れている。また、懇談の満足は、説明の満足、特に、資料の作り方や担当者による説明のわかりやすさへの満足に強く関係していることがわかる。

5. まとめ

本研究では、PI手法が市民意識等に与える影響について分析を行った。この結果、情報提供や懇談会の方法・内容等の満足度は、市民の意識・関心向上に影響を与えていること、さらに、それらの方法や内容の違いは、満足度に大きな影響を与えていること、また、参加者層が異なることで計画内容への満足度が異なる可能性も十分大きいこと、という結論が得られた。これらから、本事例におけるPIの効果は確認されたが、参加者がまだまだ少ないなど課題も多く残っていること、効果的な実施のためには、さらなる充実・工夫が可能であり、また、その必要があること、より幅広い多くの市民の意向を集めることや意見反映機会を設けることが必要であること等の改善点があげられる。

【謝辞】

本研究を進めるにあたり、調査等に快くご協力してくださった牛久市及び牛久市民の方々また、貴重な助言をくださった筑波大学社会学系岡本講師、古屋講師に心より感謝いたします。

【参考文献】

- (1) 例えば、安藤準也、「市町村マスタープラン策定の現状と課題-実際の策定状況の調査を通して-」(1996)、筑波大学社会学系卒業論文
- (2) 松田和香、「都市計画マスタープラン策定過程における Public Involvement 活動が市民意識等に与える効果の分析-牛久市を事例として-」(2000)、筑波大学大学院社会学系研究科修士論文

表4 各共分散構造モデルにおける観測変数

説明の部	・説明のわかりやすさ ・配布資料の作り方 ・掲示物のみやすさ ・ワークショップ形式の満足
懇談の部	・意見交換の活発さ ・質問のしやすさ ・職員の対応
市民の意識変化	・都市計画への関心 ・参加の重要性の認識 ・地域愛着 ・市民の意見が反映されるという期待 ・市への信頼 ・積極的な参加意欲
その他	計画素案内容への満足

表3 第1回・第2回懇談会の違い

	懇談会の内容	開催方法
第1回	・全体構想説明 ・地域別の意見収集	各地域ごと (全7回)
第2回	・地域別構想説明 ・地域別構想への意見交換	数地域合同で 開催(全2回)

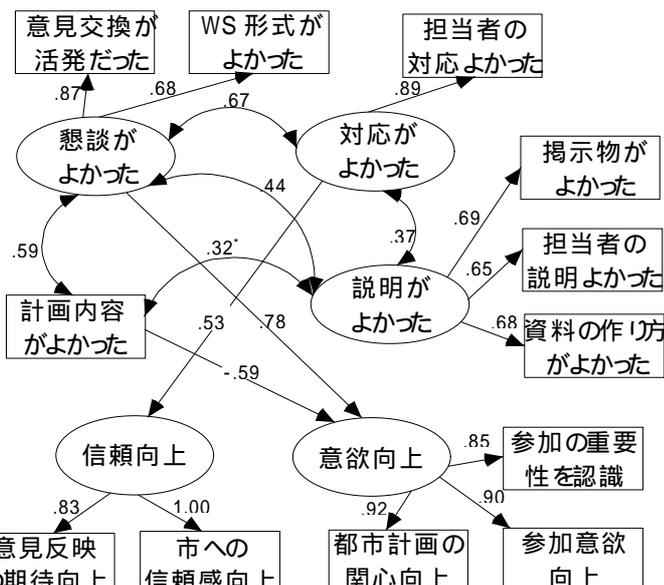


図2 参加市民の意識へ与える影響の構造(第1回)  
( $\chi^2=57.99$ , RMSEA=0.067; \*印以外は、t値が5%有意)

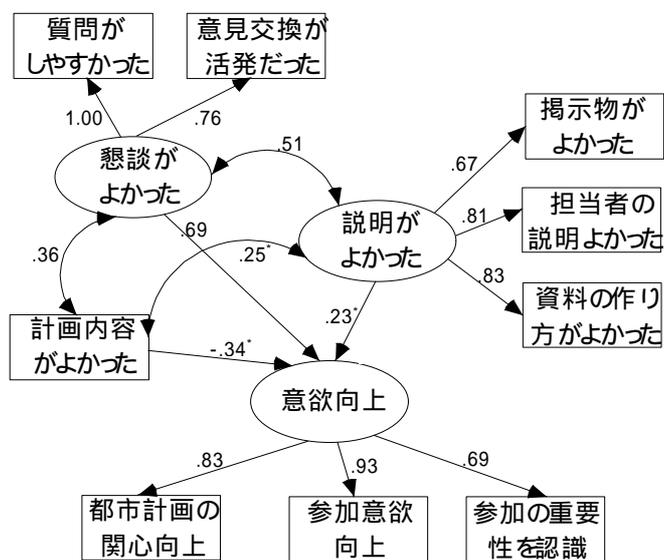


図3 参加市民の意識へ与える影響の構造(第2回)  
( $\chi^2=26.17$ , RMSEA=0.057; \*印以外は、t値が5%有意)